統のジプシー音樂が奏でられる。

ジプシーの音樂的天才については、何人も疑はぬ。しかしジプシー音樂の價値については異論がある。ハンガリヤ人は勿論この音樂をばかれ等の國土の誇りとしてゐる。だが、ブダペストに長く住む西歐人のなかには、しば〳〵日毎夜毎のこの音樂に、明かな嫌惡の情を隱さぬものもある。この音樂のやるせない哀調味、空想的な拍子の變化、豪華と單調との不思議な交錯は、しかしマジャールと血の近しいわれわれ東洋人には恐らく西歐の人々よりも一層親しいのでもあらう。とにかく自分はカフェーの片隅にかれ等に聽きふけつた夜毎の思出を今も懷しく思ひ返す。

かれ等は通常五六人で一隊を作る。ヴァイオリンの不思議に悲しげな節に、セロや小卓子程のひろさの打樂器で、絃を小さな二つのハンマーで打てばピヤノのやうな音を出す樂器が伴奏する。一段濟むとかれ等の一人が帽子を手に、褒美の小錢を集めてまはる。これについて私は面白い話をきいた。かれ等チガニ(ジプシー)は他人に對して疑り深い。いな、かれ等の仲間さへ信用しない。そこで小錢集めの役まはりは、客の間をまはる前に、先づ一方の手で一匹の生きた蠅を摑まへる。もしかれが再び仲間の所に戻つて來た時に、掌の中から蠅が飛出せば文句はない。かれが集めた金を一方の手で撮み出さなかつたことは、それで立派に證明されたのである。しかしもし、かれの掌が空であつたなら、かれ等の仲間はどんな制裁をかれに與へるか。それは遺憾ながら聞きもらした。

ブダの丘

ペストの町はこの位にしてブダの丘を一應見物しよう。有態にいへばブダの見物は、ペストの河岸から眺めるのを第一とする。そしてブダの丘での最大の收穫は、ペストの市街の大パノラマを見渡すことである。

四つの橋のうち、最も古くそして恐らく最も美はしい鐵の大釣橋、ランツ・ヒッド、(釣橋)を渡れば、道は更にトンネルとなつてブダの丘を突

乾草を集めるる人々　平和なハンガリヤの農夫婦。乾草らしたる枯草を樂しく掻き集めるる。この熊手をもつて一團の人々は汗の喜びを感じてゐる。女の達の優雅な裝ひわはれわれ日本人には百姓女にとつたでいの思はへないな繪畫的美なさしをもつてつゐる。まだ畫のーレミでるる。

水飼ひ 角長きハンガリヤの牧牛。白く寛やかなウガンを着た人牧。洋々と流れるドナウの水をひたびたはねぬ釣瓶で汲み上げて樋に流し渇たい牧牛に水飼ひをしてゐる。牧の人の服装もさうならはねぬはの瓶釣の木の構造や形もわが日本の田舎に殘るそれに似て懐しかしい。

抜いて丘の背後の南停車場とドナウの岸とを連絡してゐる。トンネルの側らから、索道を利用すると、間もなくドナウの水面から六〇メートルの丘の眞上、宏壯なハンガリヤ王宮の正門の前に上る。

廣袤涯知らぬハンガリヤの草野の眞唯中、東西を連ねるドナウの岸に迫る。このバコニイの森つづきの一丘こそ、まことにこの國第一の要害の地であつたのであらう。既にローマ人が、程遠からぬ河上の丘の麓古ブダ(オ・ブダ)の地にかれ等のドナウの固め、アクィンクムの要砦を築き、二千年の今日なほ、その大浴場やミトラの寺院の墟を殘してゐる。

傳説はまた匈奴の王アッティラ(ニーベルンゲン物語の王エッツェル)の都世界の中心たるエッツェル城をば、この丘の麓においてゐる。長軍萬里、東歐に侵入したマジャールが、ここにその本據を定めたのも無理からぬことである。既に古王朝アルパドの諸王がここに都し、そのベラ第四世の世に、今のブダの丘の上に王城は築かれた。その後幾星霜、代々の王家殊には文藝復興期の王マティヤスによつて、いかに華かな文化がこの丘の上に花咲いたことであらう。しかるに一世紀に亙つたトルコ人の支配があらゆる前代の文化を破壞し奪ひ去つてしまつた。今堂々河面を壓する大宮殿は、マリヤ・テレジャに始まり、第十九世紀の末に改築せられた近代建築である。唯一の前代の遺物たる戴冠寺院、あらゆるものを破壞したトルコ人が、かれ等の禮拜堂モスクとして利用したことによつて、僅に取遺されたこの寺院も、その後全然の改造を必要としたまでに荒廢して、また昔日の面影を止めてゐなかつた。古都ブダには、今、何等の古き寂あるものを見出し得ない。

王宮・戴冠寺院・城砦

王宮は長蛇のやうに長い白堊の正面を、河に面して丘上に屹立する。内部には八百六十の部屋を藏する尨大な建築、その中ステファンの禮拜堂には、王、聖ステファンの右手が、今なほ聖物として保存せられてゐる。

宮殿は威厳に充ち、また全體的統一においても優れてゐる。しかしその眞價は、ペストの河岸より眺めるとき、始めて充分に發揮せられる。ブダの全パノラマの焦點として、翠綠の丘の眞上に輝きながら、屹立するその英姿の美を誰か疑ひ得よう。

宮殿から北へ、ペストの大觀を賞しながら歩めば、戴冠式寺院に達する。通稱マティヤス寺院と呼ばれるこの寺院は、既に第十三世紀にロマネスク風に建てられ、第二世紀の後またゴシック風に改造せられた。堂内は彩光甚だしく不足して見物人を困惑させる。しかしその暗さに馴れるに從つて、われわれの眼は壁天井あらゆる隅々を彩る、素晴らしい色彩にまた吃驚する。その寺はアルパド王家のベラ第三世の墳墓などのほか、今見るべき歴史的遺物をもつてゐない。見物人で騒がしい堂内は、不思議に宗教的氣分に乏しく、同じ暗さでもウィーンのステファン本寺を浸す、あの神祕的な宗教的陰影に比すれば、誠に雲泥の相違がある。

騎士と女王？ これは武士が騎士の紀世中はれ別と人愛きし優に途首の業修者武いしま勇が士騎の紀世中はれこ見もと景光むし惜をれ別と人愛きし優に途首の業修者武いしま勇が士騎の紀世中はれこ。だのな姿なクツィテンマロの婦夫き若のルーャジマつもをさし床のらがな昔 。いなはでうさは實が。るえ

寺の東側、丘の懸崖は第二十世紀の始めに、美はしいロマネスク風の城壁に設へられた。このハラス・バスチャ（漁夫の城壁）は、大河をへだててペストのパノラマを見下す、最良の場所であらう。

ブダの丘の南に盡きる一丘は、ゲレルト・ヘジイ、その上には舊城砦が立つてゐる。この砦こそ、トルコの侵入に對して西歐擁護の軍兵達が、苦闘幾百年の古戰場、今は半ば公園となつて荒れるに委されてゐる。

小春日和　やさしい乙女が雛の病氣のお醫者さん。秋の小春日ぽかぽかおのかいの庭で蓙の鷲の雛におお藥を飲ましてゐるハンガリヤ農家の婦と。頭を布で包む農業地方の特徴。

マルガレーテの温泉島

ブダの丘を北に下りて、マルガレーテの橋を渡れば、マルガレーテの島に達する。この翠緑に被はれた中洲の島は、ホテル、料亭、温泉浴場等があり、この市の人々の休養地となつてゐる。温泉は硫黄性の熱泉、その泥土を身體に塗つて横臥する泥浴の奇風も行はれる。この温泉は不思議に身體の筋骨をゆるめる性質をもつてゐて、泥浴などの後は全身の力が抜けて、たゞ横臥するよりほか仕方がなくなるのである。

島の西岸には、また砂濱に設けられた水浴場がある。快い川砂を踏んで、水中に飛入つて吃驚するのは、川水の温いこと、中心に行くに從づて熱くさへある。無盡藏の温泉が河底の砂を通して、ここに噴出してゐるのである。ブダの側のゲレルト・ホテルなどは、温泉の上に建てられて、その天然の温泉を煖房のために利用してゐる。零下二〇度の酷寒にも、このホテルは屋々餘りにも暑すぎる。それなどは温泉利用の最たるものであらう。

風俗と生活

國民衣裝

どこの國土國民も、その國特有の衣裳、裝飾をもつてゐる。そしてわが法被が、廢れようとする今日、ハッピーコートとして、新しい愛用者をアメリカの新しがりの婦人連に見出したやうに、同じ數奇の運命は、ハンガリヤ國有の衣裳風俗にも、見舞つてゐる。西歐化の風が進むとともに、固有の衣裳風俗は、日に日に町や村から消えていつて、それが奇を好む西歐の市場へと賣出されてゐる。しかし今日でも、田舍の町や村へ行つて、祭禮の日や祝日にうまく出逢はすと、そこで昔ながらの國民特有の風俗が、旅行者を樂しませることであらう。

ブダペストから最も近く、最も便利に、この國民固有の衣裳見物のできるのは、メッツーコヴェストである。そこへはブダペストの北東、汽車の旅四時間程で達する。昇天節等に村を訪れると、會堂には新しい蘭草

トルナの娘さん　ハンガリヤの娘さんの着物は地方によつて幾分異つてゐる。この寫眞は南の方のトルナ縣の田舍の娘さんでカスタトを七重八重にはいてゐる。ハンガリヤにはこの幅の廣いカスタトを十枚も重ねてつけゐる地方もある。こゝらの娘さんたちの糸繰り唄に「空には星がきらきらきらり光り　乙女の車が糸くるくるくる廻る　乙女の繼せる思ひが焦れて鬱り閉ふにはは　妾はこの次いつお目にかゝれて？ねえあなた。」

な撒き散らして儀式が行はれ、その後村の中央の廣場で、われわれは充分かれ等獨特の盛裝を見物することができる。男は鍔の狹い丸い帽子を被り、鳥毛や花を飾つたのもある。白色のだぶ／＼のシャツには多くの襞がとられ、その上に袖なしの短い黑上衣をつける。脚には女の下袴のやうな廣いズボンをはき、華々しい刺繡をした前垂れをかけてゐる。女は白の下着の上に複雜極まる襞を取つた袖無し上衣をつけ、また數枚の下袴が釣鐘のやうに腰からひろがつてゐる。未婚の娘は無帽、既婚者は花冠のやうな高い帽を被り、手の込んだ縫取りの前垂や肩掛で身を飾る。女連は長い膝までの長靴、或は深紅の美しい靴をはいてゐる。

國民衣裳といつても、勿論他の地方はまたそれ／＼異つた衣裳をもつてゐる。その一例として、大平原の牧人の好むシュバを說明しよう。

シュバは足首に屆く程長い羊皮の外套、袖のないマントである。その特徴は、毛皮が羊毛つきのまゝであること、通常これを裏側にして着用する。表は黃色に粗糅しされた革地、花模樣、孔雀の羽模樣などの縫取りで飾られ、肩のところにはしば／＼黑羊の皮をつけて飾りとしてゐる。それは牧羊者にとつては、寒い日の毛布であり、雨の日の外套であり、テントにもなれば卓布の代用もする。

大平原の民

ハンガリヤ東部の大平原、一望千里、海原のやうな地平線から月が出で、また地平線に沒する大平原の住民の中、羊飼は最下級の民である。かれ等は平和な羊群と共に草に眠り、長い日を夢みつゝ暮す。かれ等に比して牛飼ひ、馬飼ひはそれぞれ高い社會的地位を占める。何となれば牛、馬の群は、平原に住む恐ろしい虻にさいなまれ、また風雨その他の物音に驚いては、狂走し散り／＼となる。そして一本の鞭と裸馬とによつて、大平原を疾驅しつゝ、かれ等を牧する仕事は、平和な羊飼ひのそれとは比べものにならぬ辛苦であり、また勇壯高尙な職業とかれ等には思

農夫の家內 埃を拂つてすがすがしく敷いたテーブル掛け。積上げた清淨な夜具。そして壁間に懸け飾つた家族の寫眞や聖賢の肖像や名書の額。これは代表的ハンガリヤ農家の內部の光景である。白い壁と窓で家の內はいかにも明るい。こゝが汗を洗つたかれ等の安息所だ。

大平原の人　ハンガリヤの東部の大平原に牧羊群と飼羊群とを番犬と。靜かにくゆれる羊群の羊を眺めつゝ立つて愛すべきパイプをくゆらす牧羊者。羊を呼び集め牧舎に追込むまで。羊を吹き笛角がかくなる。羊命令をすると馴らされた犬は巧に羊の頭二匹の犬の中央に追込むのである。

へるのである。

しかしこのやうな草から草へと放浪する遊牧の民は、今次第に減少しつゝある。大草原は耕され、沼地は乾されて、次第に村々とこれを回る麥畑に變つていつて、ハンガリヤは現在世界の大穀倉の一つとなつた。村の中央には教會堂が塔の上に、村の移住民が舊教徒であれば十字架、カルヴィン宗徒であれば鷄の標しを、空高く聳えさせて立つ。道に沿ふ藁葺きの家は皆低く、そして通りに横向きに並んでゐる。村のまはりは涯しない麥の大海原、その間に大麻、煙草、雛芥子、クローヴァまた玉蜀黍の畑が繪具板のやうな色彩を與へてゐる。地平線の單調を破つて、ところ〴〵に井戸の撥釣瓶が立つてゐる。そして夕方になると、水を求める家畜の群、家禽の群、村の男女がそのまはりに集まつて、生々とした村の生活の一切面がそこに開かれる。

そしてこれ等の村々に中心を與へる地方の町々、タイスの右岸、新國境に沿うてセゲディンは南ハンガリヤの中心、商業の般盛な都會、北東アルフォルドの中心デブレッツェンは人口九萬餘り、この地方の商業の中心地であり、またカルヴィン派の根據地として、コシュート革命の策源地として知られる。更に北タイスの上流に沿ふトカイヤは、謂はゆる王室御用酒トカイヤ(白葡萄酒)の名産地。タイス、ドナウの間に横はる大草原地方の中心地ケチュケメットは、聞えた家畜穀類の集散地で、また果實葡萄の産地として名高い。しかし、この國第二の大都會たるセゲディンさへ、人口僅十二萬足らず、いづれも特に見物すべき名所をもたぬ。

西部ハンガリヤ

ブダペストの上流から、ドラーヴェとの合流點まで、ドナウは二五キロ以上を垂直に南下する。このドナウの西側、バコニイの森の高地と、その麓に横はるバラトンの湖とをもつて、西部ハンガリヤは、東部の大平原とは異なつた地方色を旅行者に與へる。

農村の狀景　中央中ヨーロッパの樞的市都ブダペストでは一歩田舍へ足を運ぶまとまるで子樣が遊ぶ
女男の裝服の代近たしとりきつすはでトスペダ
を見るがら
人ヤリガンハの粹純な朴淳。ふ
おが
振國
り
の
物着を
てけつを
和平てけな生活を享樂してゐる。は釣ねを
靴長に
本日は
本の市都の郊外を思はせる。

バラトンの湖は、ハンガリヤ、否中歐第一の大湖で、幅員約二キロ半足らずではあるが、長さは八〇キロ餘にも亙る。平砂連る南の岸、バコニィの丘水にせまるところ、葡萄畑の綠茂る北の岸、いづれも銷夏の好遊地に富んでゐる。南岸の水浴場の中心はショーフォク、ブダペストから急行列車の便がある。ショーフォクから汽船を利用すれば、對岸バラトンフュレドに達する。船の左手、ティフォニーの岬の上に古きベネディクティン派の修道院が見える。一九一八年の夏、首都ブダペストがベラ・クン一派のユダヤ人共產主義者の流血的專制に惱んでゐる機會に、反革命、王位復活の旗を擧げて失敗した、ハップスブルグ最後の王カールが、最後の避難地として隱れたのはここである。バラトンフェンドは炭酸性の鑛泉をもつて名高い避暑地、町の中央の廣場の寺院には泉が湧いて、これを飲む人々に醫藥的な、そして宗教的な治癒力を與へる。立並ぶ水浴療治の療養院やホテルの周圍は、美はしい森、森の中には靜かな散步道が設へられ、湖岸の大散步道に沿うて、海水浴場やヨット倶樂部などが設けられてゐる。

ハンガリヤ唯一の古蹟ともいふべきバンノンハルマの修道院は、ウィーン、ブダペストの中間、ジュール（獨名ラーブ）からさして遠くはない。修道院はハンガリヤキリスト教化の發祥地で、聖マルティンスブルグの小村の丘の上に屹立する、高い塔の聳える尨大な修道院は、一見城砦のやうである。境內の寺院は初期ロマネスクの美しい遺物で、大部分第十三世紀の建築にかゝり、堂內に聖ステファンの玉座、衣裳等を傳へてゐる。このベネディクティン派の修道院の最初の院首、アストリックは、聖ステファンの友人であり、またかれのキリスト教化政策の、實際の首腦者であつた。かれ等は宗教と共に、百般の文物を、未開の遊牧の民の間に普めた。道を開き、川を治め、村や町々を建設した。今、塔の上、圓蓋の下に立つて眼下に開ける沃野を眺め渡せば、古事茫々として自ら身の現在を忘れるの思ひがある。

（村松恒次郎）

ホーエー・タラトの雪峰　ホーエー・タラトの山地は最高二六六〇メートルの嶺が連り・コエチアヤキアヴロスの最も高い峯を立てゝ立つ。しかもその位置は北緯九四度前後ところにあり千島の見當になる。

なに當見の島千がわりあにろことの後前度九四緯北は函位のそもかし。るゐてて立を峯い高も最のヤキアヴロス・コエチり連が嶺山のルトーメ

。るれば喜に共と色景いし美りなと地暑避の好絶は夏がいなけいてく寒は冬。るゐてつもを湖いし美や峰尖のもつくいや峰雪のそと谷峡ふ生松葉落ふ寫眞は氣候なかなかない寒。峰雪のそと谷峡ふ生松葉落ふ寫眞は氣候なかなかない寒。氷河時代の水河の遺跡や峰尖のもつくいや峰雪のそと谷峡ふ生松葉落ふ寫眞は氣候なかなかない寒。

ボヘミヤの奇勝　ボヘミヤの北部ド部は城古のラーカスバルフの城は紀世三十第に建てられた名有な城である。城の前には眞寫ほなどの見られぬ奇妙な岩の山は眞寫で見てもわかるように砂岩が成る粒子の狀態で形成され、色彩は黒ずんでいる。

一一、チェコ・スロヴァキヤ

總說

位置及び面積

ヨーロッパ洲のほゞ中央、北海からもバルト海からも、黑海からもアドリヤ海からも、殆ど同じ距離をもつて、大陸の內部に西から東に延びた國、それが今いふチェコ・スロヴァキヤ國であつて、その西半はドイツとオーストリヤとの間にはさまり、東半はポーランドとハンガリヤの間にはさまつてゐる。

その地勢上西部卽ちボヘミヤと、中部卽ちモラヴィヤと、東部卽ちスロヴァキヤとの三部に分れ、この外シレジヤの一部と、最東端のルテニヤとを含み、東西およそ一、二〇〇キロ、幅最大約二〇〇キロ、面積一四、〇四八五平方キロ、卽ちわが日本の半分にも足らぬ。

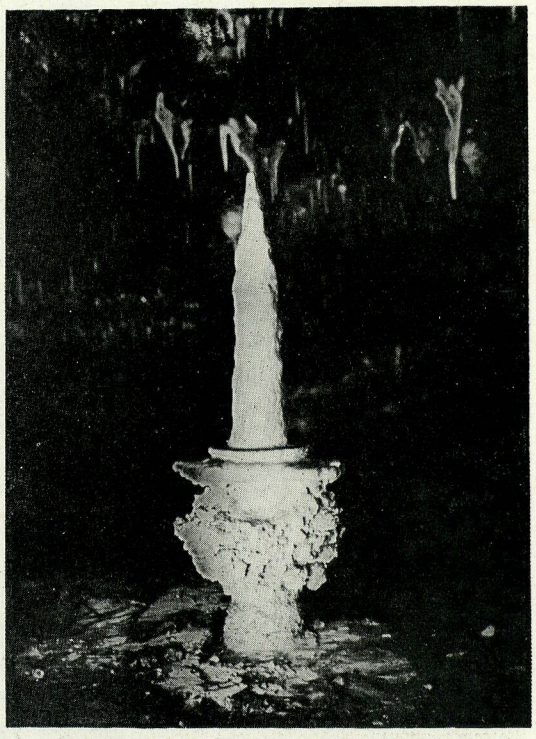
地勢の大要

ヨーロッパ洲の中部を東西に貫くアルプス大山系の東端は、ウィーンの附近で、長流ドナウ（またはダニューブ）の斷つところとなり、その東北對岸では、小カルパーテン（小カルパティヤ）の丘陵列を成して、更にカルパーテン（カルパティヤ）の山系を興す。チェコ・スロヴァキヤはこの二大山系の中絕部を斜に橫切り、その西北から東南に延びてゐるのであるから、各部によつて地勢の上にも大差がある。

ボヘミヤの盆地

西部卽ちボヘミヤは、四つの山脈にほゞ菱形に圍まれた盆地であつてその西南側は最高一、四〇〇メートルほどのボヘミヤの森によつて、ド

今日の祝日　民族のためにめたの國の警名のためになにがくが忍従と闘ひきたつた老父は獨立の記念日にその愛らしい孫に手をひかれて通りすぎる行列を眺めてゐる。清着をきた子供はいかにも元氣に見え希望に燃えてゐる。無雑作に上着を羽織つた父老の眼は涙をさへ堪へてゐる。



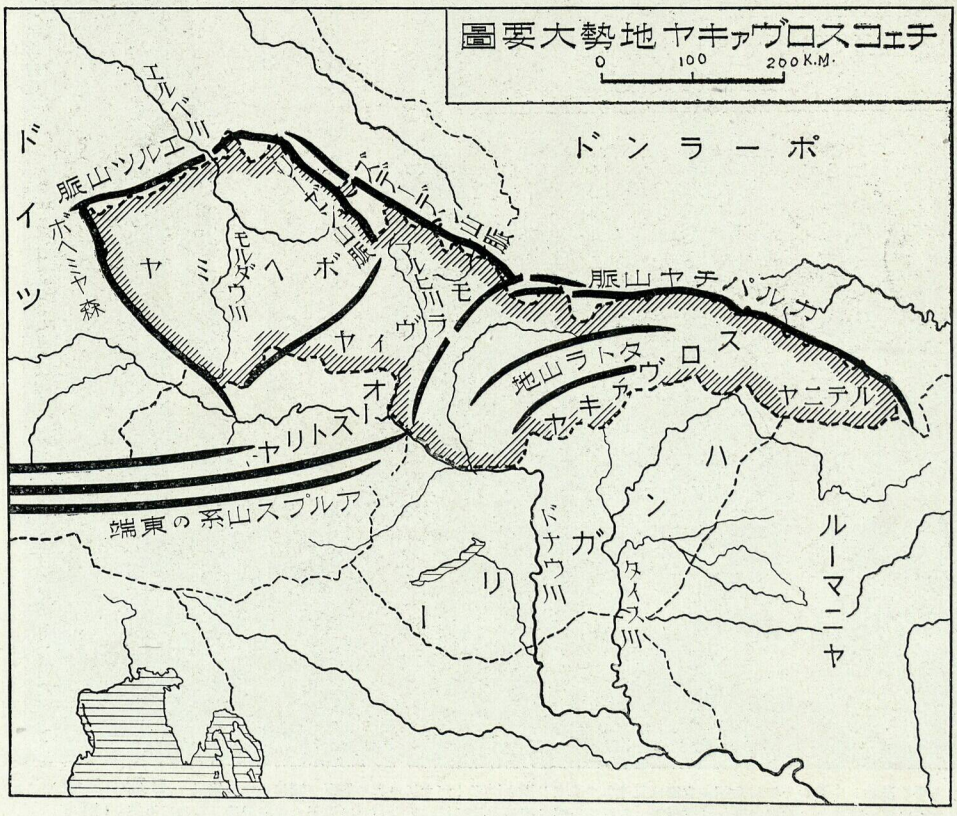
石灰洞の大石筍　有名なモアツハアー石灰洞内における大なる石筍。一大畑鐵立のやうな形で電光に美しく光り輝いてゐる。

イツのバヴァリヤに隣し、西北側は最高一、二四〇メートル（カイル山）のエルツ連山をもつて、同じくドイツのザクセンと隔てられ、東北側はリーゼン、ズデーテン兩連鎖山脈によつて、ドイツのシレジヤに界する。これまたその最高峰シュネーコッペで一、六三〇メートルに過ぎないが、以上何れもドイツ側には緩斜するが、ボヘミヤ側には比較的急斜し、ドイツ側からの文化の侵入は妨げぬが、ボヘミヤ側からの進出を妨げてきたかの觀がある。

またボヘミヤの東南側にはメーレン山地が連亙して、低いながらも立派な分水嶺をなし、その北側の盆地の水は、モルダウ、ベラウン、エルベの諸流を合一して、エルツ山脈の東端を貫き、ドイツに入つて北海に注ぎ、南側の水はモラヴィヤの野を濕して、ドナウの流に合し、遂には黑海に入るのである。

ボヘミヤの盆地はこれらの四方の山脈に圍まれ、南に向つて次第に高まり、北に向ひて次第に下る波狀面をなし、その中心をなすプラーグ市の如き、海を去ること六〇〇キロ餘の上流にあつて、なほ海拔一八〇メートルに過ぎぬのである。

たゞしこれらの波狀地にも、所々に鋭い山が屹立して第三紀火山の殘跡を留め、白堊紀の砂岩は直立した岩柱を連ねてこの盆地の單調を破り



建國祭 チェコ・スロヴァキヤの獨立記念日の情景である。この日は軍隊をはじめ各種の國民團體では先頭に旗を押立てて町々を練つて歩く。子供の時分からソコールの精神に育くまれたかれら等國民は團結心に富み團體運動によく訓練されてゐる。秩序整然と數千の人が行列をつくつて進むときの意氣昇天の力强さを感ずる。またへ迎へる人々もいかにも明るく自由の日を喜んでゐるさまが窺はれて心地よいよ。

メーレン山地の東北部には石灰岩の種々の奇觀が存在する。

モラヴィヤの起伏地

ボヘミヤ盆地の東南側を完全に限るメーレンの低山地を東南に越えれば、ドナウ河の支流マルヒ河の水域に屬するモラヴィヤの地域となり、西北はメーレン山地、東北はズデーテン山脈東南はカルパティヤ山脈最西部に圍まれ、南西側のみ次第にオーストリヤ方面に下つてゐる。

この地域には幾つかの小山脈が南から東北の方向に走り、丘陵性の農耕地をなし、その東北境ズデーテン山脈すら、マルヒ河の上流とオーデル河の間を隔てるモラヴィヤの關門では、海拔三〇〇メートルに過ぎぬ。もしこの兩河を運河で結べば、黑海とバルト海は連ねられる。

スロヴァキヤの山地と平原

モラヴィヤの南半にはカルパティヤ大系の南側に抱かれ、これに接したハンガリヤ・エルツ山地及びその東側にあるタイス河上流の平原を含み、南卽ハンガリヤに向つて、これを瞰下すスロヴァキヤがある。

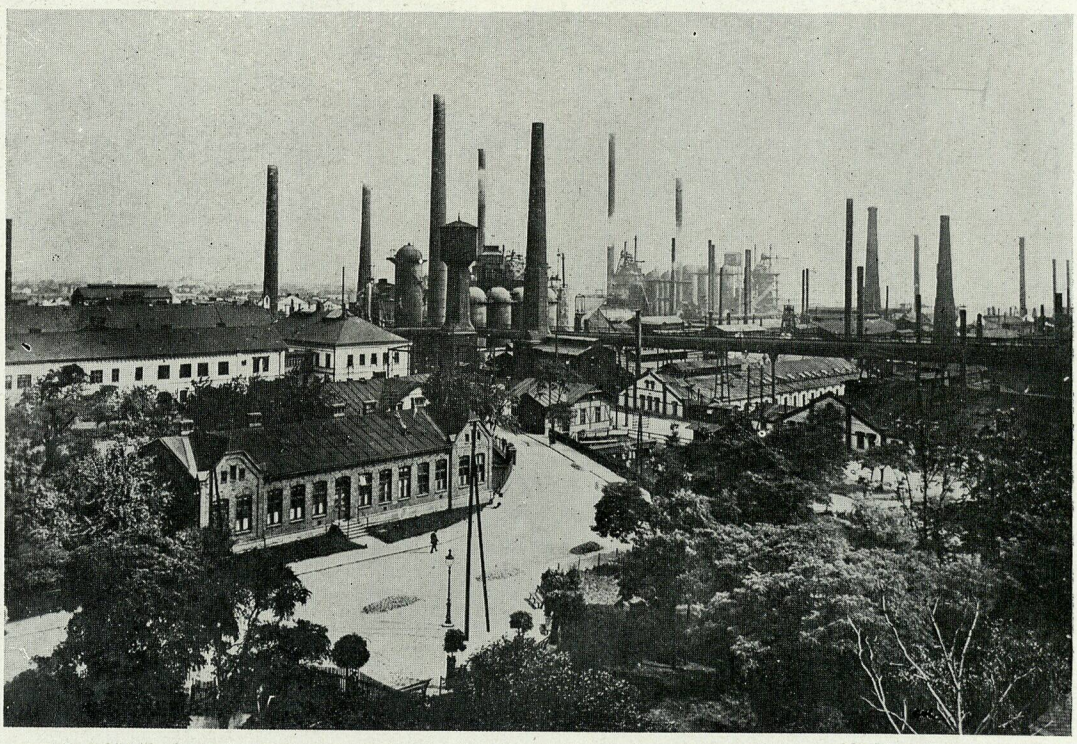
ハンガリヤ・エルツ山地は、北部卽ち高タトラ山地及び南部卽ち低カトラ山地に別れ、前者は最高二、六六〇メートル、チェコ・スロヴァキヤの最高峯をなし、後者また海拔二〇四三メートルに達してゐる。しかもその位置、北緯四九度前後卽ちわが千島の北部に當るので、氷河時代の氷河の遺跡の數多の尖峯明湖を列ね山腹以下には松柏林が鬱蒼と茂る。

カルパティヤまた海拔およそ千五六百メートル、一名カルパティヤの森といはれるほど密林に富むが、山頂附近は森林帶を突破して、ボロナインスと呼ばれる草原に被はれる。

四周皆山、ドイツに注ぐエルベ河畔のボヘミヤと、三面は山、南に向つてオーストリヤに下るモラヴィヤと、三日月形の山を背負つて南に向つてその南斜面をなすスロヴァキヤとは、それ〴〵地勢上に獨立する。

氣溫と雨量

次に氣候はいかがであるか？ その代表としてボヘミヤの都プラーグ、及びモ



ウイトコヴィツェエ場地

チェコの工業の大宗は鑛と鐵とでもちろんボヘミヤ地方が占領してゐる。ボヘミヤの鑄造鐵は銀を想ふさせる盛んなそこに煙突林立する工場の寫眞は第十四世紀頃から相當有名であつた。寫眞はボヘミヤのウイトコヴィツェ附近の鐵工場の寫眞である。

ボヘミヤの寒村風景　こゝはボヘミヤ北部の一寒村の屋根はきまざまの形をたしたよつな並家とつよな郊外の安手な文化文化住宅地の中にもちらほらと見える。しかし實はこゝに貧弱な百姓家で落集の家で落集の村落の通り長い間潤浸の弱貧なそが。ある。

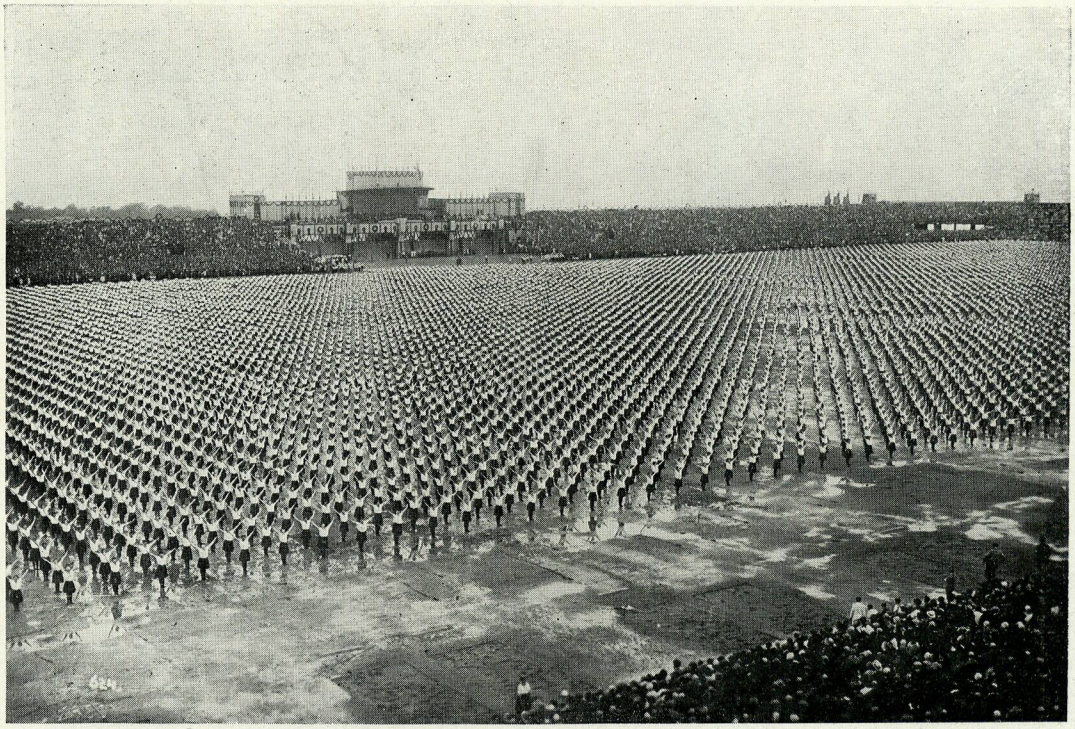
ラヴィヤの都プリュンの氣溫を函館の氣溫と比較すると、プラーグもブリュンも年平均はほゞ函館に似てゐるが、年比較差は遙に小で、溫度はずつと溫和である。

プラーグ、ブリュン並に函館の溫度比較表

	プラーグ	ブリュン	函館
一月	零下一、五	零下二、八	零下三、〇
二月	〇、〇	零下一、二	零下二、三
三月	三、二	二、三	〇、七
四月	八、五	八、三	六、四
五月	一三、五	一三、五	一〇、四
六月	一七、三	一七、二	一四、四
七月	一九、〇	一八、七	一八、九
八月	一八、三	一七、六	二一、五
九月	一四、七	一三、八	一七、八
十月	九、三	八、五	一一、七
十一月	三、三	二、九	五、六
十二月	零下〇、四	一、八	零下〇、二
年平均	八、八	八、一	八、五
年較差	二〇、五	二一、五	二四、五

尤もボヘミヤの一部でもエルツ山脈ズデーテン山脈等は、その高さが高いので、冬はかなり寒く、またボヘミヤから東して、モラヴィヤ、スロヴァキヤ方面に入れば、冬の寒さは一層加はり、カルパティヤの北部では極寒の時は零下三〇度といふやうな、わが國の札幌、旭川の極寒時の溫度となるが、夏はその代り涼しいので、避暑地としては都合がよい。

氣壓の分布、從つて風などの狀態は、大西洋の影響が多く、西風を受けることが多いけれども、大陸的氣壓を示すこともあつて、春と秋には東風が多い。また十二月頃になると、ボヘミヤの中部に高氣壓の中心が起り、四方に漸減することも少くない。この時は、ボヘミヤの近邊が最も寒く、四方に漸次減じてゆくから、ボヘミヤを中心として、歐洲は大



ソコールのスマゲムー 人か花か。たゞ見る廣い花園にぱつと開いた花のやうな。黒い下袴に白い上衣のチェコの女性がソコール・グウラグンドに列整してさまざまにスマゲムーに移るうとするところ。その潑剌たる健保の意氣と協力の精神は頭も思はれる。

陸的氣候となる。

雨雪の總量はボヘミヤで年六八二ミリ、わが國に比較すれば非常に少いが、奉天の年六五六ミリ、大連の六一九ミリよりは多い。一年中について見ると、大體に雨は夏多く冬少く、その割合は春二五パーセント、夏三八パーセント、秋二一パーセント、冬一六パーセントである。

スロヴァキヤの氣候は、所によつて非常に違ふけれども、雨は概して多く、夏には殆どその雪もとけてしまふが、高タトラの山の上、谷の中には、夏といへどもとけずに殘る所がある。雨量も地方的差異はあるが、夏と秋には平均して多く、年平均はルテニヤと通じて一〇ミリである。春に曇天の多いのも、この地方の特徴である。

チェコ・スロヴァキヤにおける雨量表（ミリメートル單位）

	最大	平均	最小
ボヘミヤ	八五〇	六八二	五〇五
モラヴィヤ	九三〇	六六七	五九一
シレジヤ	一、一四五	八七三	七六三
スロヴァキヤ及びルテニヤ	―	八一〇	―
全國平均	―	七四〇	―

住民

住民の大部分はチェコ人及びスロヴァキヤ人で、前者は主にボヘミヤ及びモラヴィヤに、後者はスロヴァキヤに住む。何れもスラヴ民族ではあるが、言葉も違へば習慣も違ふ。このほか多數のドイツ人や、マジャール人即ちハンガリヤ人も多く、人種問題が複雜である。

假に一九二一年における統計を示すと、

チェコ・スロヴァキヤ人	八、七六〇、九三七人
ロシヤ人	四六一、八四九人
ポーランド人	七五、八五三人
ドイツ人	三、一二三、五六八人
マジャール人	七四五、四三一人

若き母と子　秋もそろそろ眞中になるチエコ・スロヴァキヤの或る農村の若き母と子。ぎよとんとした可愛い子供は何を見てゐるところやら。穿つた長靴に異國情緒がほの見える。上に吊してあるのは豐年に喜んで取入れた玉蜀黍。葉末にすだく蟲の音もものうい可成り繁い。

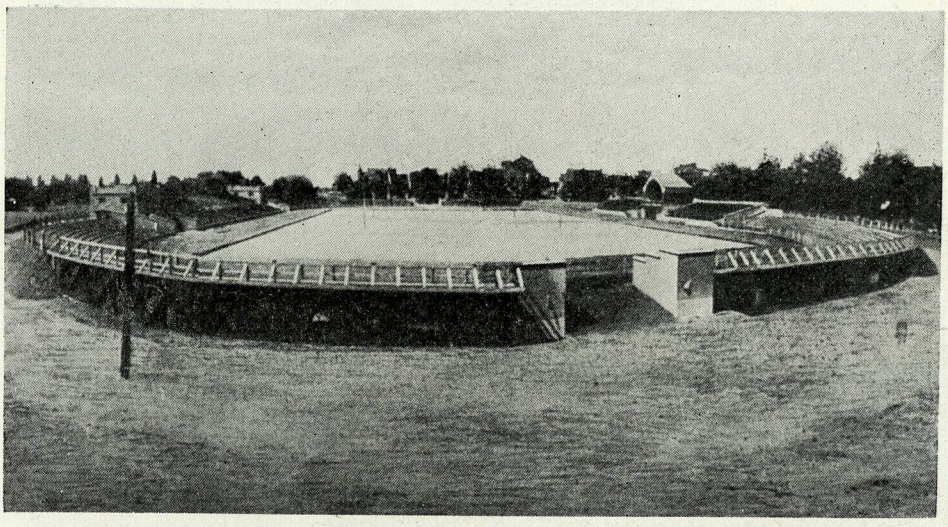
ユダヤ人　一八〇、八五五人
その他　二五、八七一人

であつて、このうち更にボヘミヤ、モラヴィヤ、シレジヤ、スロヴァキヤ、ルテニヤの五部に分け、そのおの〳〵の面積人口を比較すると。

チエコ・スロヴアキヤの面積人口表

	面積（キロメートル）	人口	密度
ボヘミヤ	五一、〇四一	六、三〇、五三一	一元
モラヴイヤ	三、〇四四	二、六六、八四四	三三
シレジヤ	四四、〇一〇	三三、三六六	一〇一
スロヴアキヤ	九二、〇一三	三、〇〇〇、八一〇	三九
ルテニヤ	三、六四四	六六、五六六	四
合計	一〇〇、四五五	三、六三、三三一	人

となる。

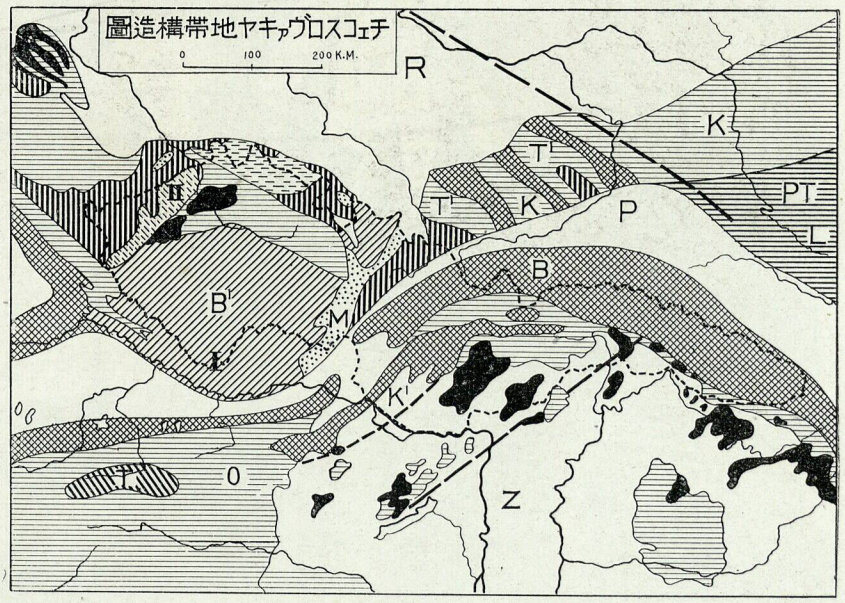


ソコールのグラウドン　運動は學生の物の殊に婦人は女學生時代こそ多少活躍はしてもの一旦卒業すればぱ田島を戴せて戴せて繼に寧日もないわがは國とはは格段の相異チェコでは老も若もも男も女もこのソコールのグラウドンで身體を練るのであるの。

沿革

そも〳〵チエコ・スロヴァキヤといふ國名は、この地方に居住してゐる二つの民族、即ち西方ボヘミヤ及びモラヴィヤ地方のチエコ人と東方舊ハンガリヤ領内にゐたスロヴァキヤ人との名を合せたのである。このチエコ人とスロヴァキヤ人とは血族が近く、共にスラヴ民族に屬することは前に述べた通りである。

チエコ、スロヴァキヤの兩民族がこの地方に移つたのは、第六世紀のことであつて、かれ等は東方からここに侵入し、先住のゲルマニヤ民族を排して、ボヘミヤ、モラヴィヤ地方に據つたのである。が、この民族が顯はれだしたのは、かのオット大帝がマジャール人を破つた頃からであつて、ボヘミヤ人は當時大帝の軍に屬して功をたて、次第にドイツ皇帝の信任を得たのである。ボヘミヤ王國といふ稱號のできたのは、ウラジスラウ第二世といふ人が、ドイツ



ボ—B/。層生古—P/。統系のヤィテパルカ—K/。ンデーキスペ亞とンデーキスペのヤィテパルカ=B
周—II。るさ被ひ覆層生古に上のを岩片晶結の代古太—I。方地ウナドび及ホダルモ—塊地ヤミヘ
圖方地てに太古界の片の岩の覆せる構造を有するのもの—T。紀疊—M。方地ヤィヴラモ。

皇帝に忠勤をはげんだ結果であつた。これは實に、一〇八六年のことである。

この王國が全盛に達したのは第十三世紀の中頃で、その領地はオーストリヤ、モラヴィヤはもとより、南はアドリヤ海にも臨むといふ有樣であつたが、名王オトカル第二世の死後だん〳〵に弱くなり、第十四世紀のはじめ頃には再びドイツ皇帝の屬地となつた。

その後ボヘミヤの首都プラーグに、有名な宗教改革者ヨハン・フスが現はれ教會の腐敗を慨して宗教の改革を叫び、遂に異端者として焚殺された。これがため、フスの信徒は前後十七年に亙るいはゆるフス派戰役を起し、その中心であつたボヘミヤの地は非常に荒廢した。この戰爭は表面宗教的戰爭であると同時に、他面にはまたチェコ民族の獨立を回復せんとする政治的戰爭で、チェコ・スロヴァキヤの獨立といふことからは、忘れることのできない大事件である。

こんな譯で後年ドイツにルーテル一派の宗教改革が始まると、ボヘミヤ人は新教に走り、ドイツ皇帝は飽くまでも舊教を強ひたのでこゝにプラーグの騷動が生じ、三十年戰役の幕は切つて落された。しかもボヘミヤ人は不幸であつたワイゼンベルグの戰はもはやかれに起つことのできない打擊を與へた。

爾來ボヘミヤに對する取扱は、爲政者の如何によつて寬嚴に多少の差はあつたが、總じて抑壓せられた。それに加へて以後度々の戰場と化し、かれ等の不幸を更に增した。この間にも名皇后マリヤテレジヤと、その子ジョセフの改革によりボヘミヤの復興が企てられその狀態は改善せられ、富源は開發せられ、ボヘミヤの人口は國力と共に增大し、もつて第十九世紀の前半に及んだ。

第十九世紀に入つて民族主義が

祭日のスロヴァキヤ人　スロヴァキヤの山中に住む百姓が今日の祭のクッリトカの日に赤の縫取りをしたる白衣を着て黑の九帽をかぶり町出にゆくところ。容貌は典型のヴラスの。

到るところに勃興するやうになると、チェコ民族のドイツ民族に對する反感は次第に盛になつた。

かくて過般の世界大戰が始まるや、かれ等三十萬の軍隊はことさらにロシヤに下り、叛旗を獨墺に向けたのである。不幸ロシヤの革命に會しかれ等は辛くもわがシベリヤ派遣軍の救援によつて、東に脫出するを得ただけに終つたが、この劇的大冒險は初代大統領マサリック博士の劃策と相俟つて、遂に一獨立國として復興の歡を得たのである。

タトラの仙境 ホーエー・タトラの高山療養所が建てられてゐる。殘り雪を踏みだしていよいよ高く鐵道が登つてゆく。寂寞の腹山なれども清き氣は濃ゆ一つの山嶺の間に

宗教

フス派の戰に敗れ、更にワイゼンベルグの戰に敗れて後、ボヘミヤ國における新教々會に對するハプスブルグ家の迫害は深刻に續けられ、ボヘミヤ、モラヴィヤの住民は次第にローマ・カトリック教に歸し、一七八一年「寬容の命令」が發せられた時には、人民の僅二パーセントが新教の信者であることを宣言したに過ぎなかつた。

但し、シレジヤにおいては、新教徒に屬するテッシェンの教會の維持を許され、東部シレジヤでは尙ほ大きな新教のミノリティがあり、スロヴァキヤにおいても新教徒は同樣に自由を享けた。このほか東スロヴァキヤに住むチェコ・スロヴァキヤ人の約十萬はギリシャ正教に屬し、その大部分はロシヤ系であり、獨立宣言の少し前にも、約六萬のロシヤ系のものはロシヤ正教會に加はつた。獨立後約百二十五萬はカトリック教會に止り、二分の一は入會せず五分の二は獨立のチェコ・スロヴァキヤ教會を組織し、殘部は福音教會に加はつて、ユダヤ教を奉ずるものの教は西から東へ增して、ボヘミヤでは一・二パーセントスロヴァキヤでは四・五パーセントである。

今宗教による人民の數を分けると、